

20141106 現代政治戦略研究会

2015年統一地方選盛り上げシリーズ！

テーマ：市議会議員に転職しました。

～マネジメントやマーケティングなどのビジネス経験が地方政治を変える～

日時：2014年11月6日（木）19:00-21:00

場所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

発表者：遠藤ちひろさん（多摩市議会議員）

伊藤大貴さん（横浜市議会議員）

参加者：参加者 12人（発表者除く）

（会社経営者、会社員、月刊誌編集長、公務員、大学生、NPO法人理事長、
行政書士・司法書士など）

目次：

1. プロフィールと政治家になるきっかけ
2. 選挙の体験
3. 議員になって感じたギャップ
4. 追いかけている政策
5. 議会
6. 地方自治体の特殊性？
7. 有権者へのアプローチ
8. もし再選したら何をするか

発表：

1. プロフィールと政治家になるきっかけ

遠藤さん（以下、「遠」と記載）学生時代に会社を設立しました。中小企業でしたのでキャッシュフローとかたいへんでしたし、営業もきつかったです。

政治家を目指したきっかけは、元々、政治に関心があったからです。経営者として、政治家の不用意な発言で経済に影響があることや、おかしい法律があることに不満がありました。とはいえ、愚痴っても変わらない、自分で政治家になるしかないと考えました。それが、25歳のときで、政治家になったのは34歳のときでした。

国会議員は数が多過ぎて埋没してしまうと考えて、首長になるべきと考えました。

伊藤さん（以下、「伊」と記載）大学まではすんなりでした。しかし、就職活動が97年～98年にてまさに氷河期でした。

それでも、学んできたことを活かせる仕事として、メディアに何とか就職できました。政治家になることはまったく考えていませんでした。

しかし、白内障になって、失明の可能性が判明して、政治に向き合いました。

また、結婚してたまたま横浜に住んでいたのですが、江田憲司さんの街頭演説を聴いて面白いと感じました。そこで、ダメモトでメールを出してみたのですが、お返事をいただき永田町でお会いすることになりました。

2. 選挙の体験

遠) 会社のあった中野区にて、長妻昭さんの選挙ボランティアをしたことがあります。しかし、選挙が大き過ぎてピンときませんでした。このあと、米沢市の市長選のボランティアをしました。3回落選した候補者が僅差で逆転しました。これが選挙の原体験になっています。また、負ける選挙というのにも気付きました。候補者が選対本部に口を出し過ぎる場合です。候補者に決定権がありますので、参謀などサポーターの役割が無意味になってしまうことがあります。

伊) 選挙ボランティアをしたことがありませんでした。そもそも、選挙を手伝うことができることも知りませんでした。しかし、いきなり横浜市議選に出馬することになってしまいました。国会議員の後援会のバックアップがあるとのことでしたが、国政選挙と市政選挙ではやはり違います。どうやったらサポーターの心を動かせるかを考えました。必死の姿が必要と考えました。

そこで、街頭演説を統一地方戦の前年12月から徹底して行いました。始発から終電までです。明けて1月からポツポツとサポーターが動き始めてくれました。

3. 議員になって感じたギャップ

遠) 議会での質問ですが、一つのテーマについて2回までしかできません。これでは追及できません。また、一度決まったことを蒸し返されることもあります。ビジネスの世界では信用にかかわるのでなかなかないことです。合わせて、記録をしていなかったり、ネットを使っていないということもあります。

※多摩市議会の場合、本会議での質問回数には制限がありませんが、ひとり30分という持ち時間があります。むしろ本会議にパソコンやタブレットを持ち込めない。委員会には持ち込めるが、ネットに接続できないという民間では考えられない時代錯誤にギャップを感じました。

伊) 行政のしがらみです。行政が変えざるを得ない環境を作る必要があります。たとえば、マニフェスト大賞です。この受賞者という肩書を活用して、動かそうとしています。また、議会の少数会派として、いかに多数会派を動かすかということも必要です。

4. 追いかけている政策

伊) コミュニティデザイン、まちづくり、ICTです。記者のスタイルで市民にぶつけてフィードバックを得て、これを議会にて質問しています。市民を想定読者としています。仮説を立てて、裏付けのための事例を集めます。記者であったことのアピールが活かされています。市政レポートも発行していますが、自転車に乗っていると市民から「面白かった」と声をかけられることも多いです。

遠) 経営者視点にて、お金のスポットを当てています。歳出削減だけでなく、増収をいかに行うか提案しています。行政はコスト意識がありません。たとえば、資料をPDFにして、印刷代を節約するとかありません。増収については、地方自治体のいまある資源を活かすことを考えています。たとえば、①体育館や公民館のネーミングライツ、②清掃工場による売電(清掃工場は発電ができます)、③地方自治体の基金の積極運用です。③については、現在は定期預金だけです。金融知識がないので怖がっています。東京都は年金基金を運用しています。せめて、金利1%を目指したいです。

伊) 眠っている資産については横浜市も同様です。行政は活用の発想を持ち得ません。だからこそ、民間出身者の役割があります。たとえば、公園ですが、レストランに貸し出すとかしても良いはずですが、しかし、壁があります。役人は「都市公園法に抵触します」と言ってきます。それでも首長次第で変えることができます。大阪市などが前例を作ることで、変わってきています。

遠) 法律は解釈次第です。法律に書いてあることしかやらないか、それとも、禁止事項以外は行って良いとするかです。人口減少社会に対する危機感の共有が解釈の考え方を考えることにつながると思っています。

5. 議会

遠) 議会は立法機関であり、社会課題の現場に近い議員の集まりです。しかし、過半数を得ないと決めることができません。多くの自治体で、いわゆる与党と言われる(地方議会では与党と言うのはおかしいのですが)、自民党や公明党は行政との事前のやり取りを行って、思い通りにできています。

伊) 地方議会は二元代表制なので、議院内閣制の国会とは異なります。しかし、地方議会の与党に相当する会派は、首長の提案を丸のみしないといけないと考えているようにしか思えないところがあります。また、政策については是々非々ですと、住民には立場が不明確に見えるようです。これですと、住民にウケません。地方議会でも政策を行政が作っています。本来、議員の政策づくりをサポートする議会事務局も弱体です。地方政治版のシンクタンクも一時流行りましたが、ほとんど廃れてしまいました。ただし最近、まちづくり系のシンクタンクでがんばっているところはあります。

6. 地方自治体の特殊性?

伊) 公会計が浸透しつつ、これが特殊性を変える契機になるのではないかと考えています。

遠) 地方自治体は未だに金銭出納帳で会計をしています。原価の感覚がありません。たとえば、公立の会議室の料金ですが、安価に見えます。しかし、これは税金が入っているからです。また、公立の図書館は無料で貸出していますが、1冊300~400円の税金がかかっています。

7. 有権者へのアプローチ

伊) 地方議員は全国に2万人います。選挙区だけでなく、全国探せば感性の合う人が必ずいます。見つけ出して、ファンになるところからが良いのではないのでしょうか？たとえば、BLOGを読んで気に入ったら、**Twitter** をリツイートしたり、**Facebook** でシェアしたりです。地方議員は見られているという意識は普段ありません。評価していただけると嬉しいです。票やお金以外での応援です。地方議員との関わり方が変わっていくでしょう。

遠) ①投票率と②一票の格差です。投票率が低いとそもそも正当性に問題があります。投票をしない人に、どう投票をしてもらうか。期日前投票だけでなく、電子投票も検討すべきかもしれません。一票の格差についてはとにかくこの不当性について声を上げて欲しいです。

8. もし再選したら何をするか

遠) 議員立法を1本は行いたいです。SNSはメディアを所有しているのと同じです。SNSによる拡散でできないか考えています。

伊) コミュニケーションのあり方を変えたいです。政策形成を市民セクターを巻き込んで行いたいです。現在のパブリックコメントはすでに政策が出来上がった後に行われています。これはおかしいです。また、ICTやオープンデータを活用したいです。政策については情報が非対称になっています。これを改めたいです。横浜市はもう一步のところまで来ています。

以上